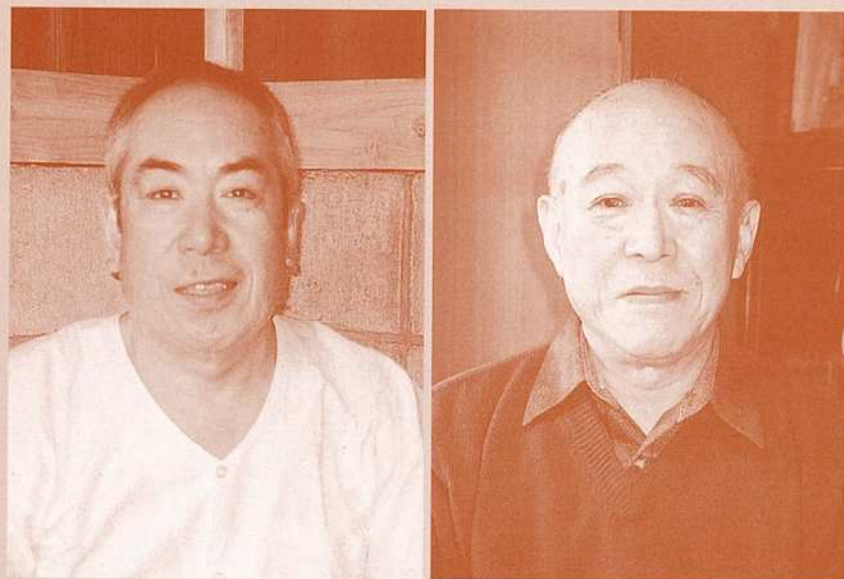


伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



たち ばさみ
裁 鋏

いし づかしょういち ろう
石塚 昭一 郎

おか もと かつ ひろ
岡 本 勝 廣

(平成13年度作品)

16^{ミリ}映画・ビデオ
カラー・25分

プロフィール

いしづかしょういちろう ちょうたろう
石塚昭一郎 (長太郎) 写真(左)

住所、荒川区南千住5-3-12

昭和9年(1934)、東京都生れ。

平成12年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

石塚さんの祖父・長太郎さん(初代長太郎)は裁鋏の創始者吉田弥吉(弥十郎)に弟子入りし、明治34年に独立した。以降、石塚家三代にわたって鋏作りに携わっている。石塚さんは、父・光太郎氏(二代目長太郎)の長男として生れ、13歳の頃から父の仕事を手伝っていた。中学卒業後、正式に父のもとで修業を始め、以後50余年にわたり裁鋏を手がけてきた。

刀鍛冶の技術をひく「総火づくり」で、裁鋏を作る。生地や時代の変化に応じて鋼材の吟味や裏すきの技法などに改良を加え、技術の練磨と品質の向上に努めてきた。後継者はいないが、今日も力強い槌音を響かせて鋏をつくっている。

おかもとかつひろ ちょうかつ
岡本勝廣 (長勝) 写真(右)

住所、荒川区東日暮里6-26-2

昭和5年(1930)、新潟県生れ。

平成12年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

岡本さんは、昭和21年、新潟県内で小鋏を作っていた叔父のもとで3年間鋏作りの修業をつんだ。昭和24年に、台東区に住んでいた実姉を頼って上京し、石塚光太郎さん(二代目長太郎)に弟子入りして裁鋏の技術を修得した。昭和37年に独立する際に、長太郎の「長」の一文字を譲り受け「長勝」とし、昭和45年に現在地に転居した。

岡本さんも、石塚さんと同様に全国でも数少ない「総火づくり」の裁鋏を作る。後継者こそいないが、「一生使える鋏づくり」に励んでいる。

企 画
著 作

荒川区教育委員会・制作 株式会社 文化工房

用具・工具

軟鉄、刃物鋼、鉄ろう、荒木田、松炭、いぼた、火床、鉄敷、とび口、
鉄槌、鉄箸、目打ち、たがね、やすり、へら、グラインダー、研磨機、
布やすりなど

総火づくりの工程

(1) 【軸出し】

穴下から輪までを軸といい、輪ごしらえをするために鉄敷の角を利用して親指側、下指側の軸を延ばしていく。

(2) 【輪ごしらえ】

《親指部分》軸出した軸の先端に目打ちで穴をあけ、少しずつ広げる。接点突起（いぼ）を作る【いぼ出し】。

《下指部分》軸出した軸の先端を二つに割り薄く打ち延ばしてから大きめの輪を作る。

(3) 【鍛接・穂延べ】

親指・下指両方の地鉄に刃物鋼を着け、刃の部分を鍛えのばしていく。

(4) 【軸曲げ】

親指・下指の軸曲げをし、二本のバランスと銚の形を整えていく。

(5) 【粗削り】

グラインダーで刃の表面を削り取る。

(6) 【ねじ穴をあける】

親指側に丸穴を、下指側に角穴をあける。

(7) 【焼きいれ】

刃を800℃くらいで焼き、刃に堅さをだす。直接、刃に空気を当てないように荒木田を塗る。

(8) 【へらがけ】

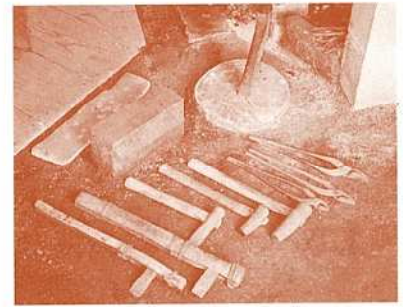
いぼたをふりかけてへらで磨き、艶を出す。

(9) 【裏すき】

刃裏がくぼむように目の細かい布やすりで研ぐ。

(10) 【擦り合わせ】

ため木を使って刃のひねりや咬み合わせの調整を行う。この擦り合わせの調整が切れ味の差となるため、銚作りの中では最も重要な工程となる。



(用具・工具)



(穂延べ)



(完成品・長太郎作)



(完成品・長勝作)

<ビデオテープ> 荒川区内の図書館で貸出ししています。貸出し期間は、1回15日間です。
(図書資料扱いのため)

<16mm映画> 荒川区立南千住図書館で貸出ししています。貸出し期間は、1回5日間です。
ただし、団体登録及び16mm映写機講習修了者の操作が義務づけられています。なお、映写機も貸出ししています。

<問い合わせ先>

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

南千住図書館・・・3807-9221

町屋図書館・・・3892-9821

荒川図書館・・・3891-4349

日暮里図書館・・・3803-1645

尾久図書館・・・3800-5821

荒川区立図書館のホームページ <http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>